



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

ナウル共和国

— 2021年度 地域巡回機能回復等支援事業 —
(終了時評価—2022年4月)

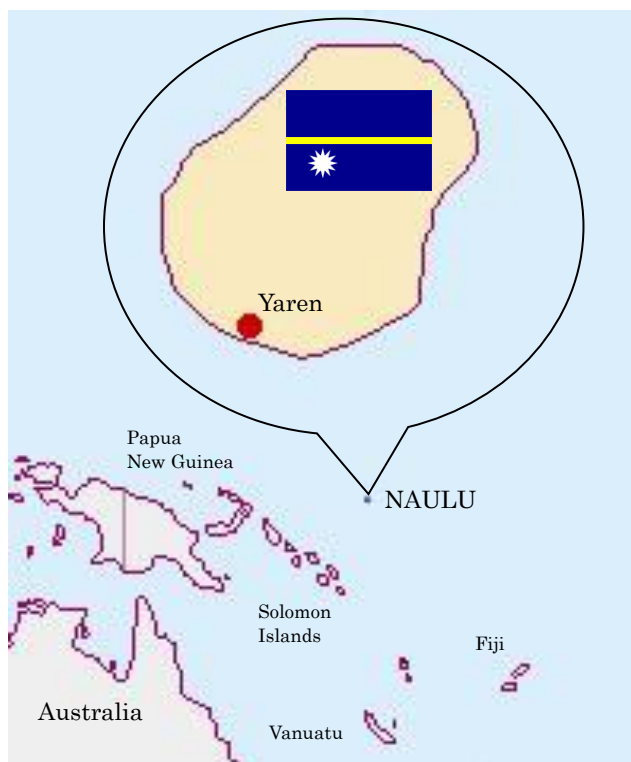
プロジェクトの概要

国名	ナウル共和国
プロジェクト名	2021年度 FDAPIN VII プロジェクト
実施期間	2021年8月31日(覚書署名)～2022年3月31日
覚書署名省庁名 及び 事業実施機関	覚書署名省庁 : 漁業海洋資源局 (NFMRA) 実施機関 : 漁業海洋資源局 (NFMRA)

プロジェクト実施の経緯と背景

ナウル共和国(以下「ナウル」という。)政府は、2005年に長期戦略(Nauru Sustainable Development Strategy 2005年～2025年(NSDS、2009年に改訂))を打ち出した。このうち海洋・漁業分野においては以下の8項目を掲げている。

1. 漁業海洋資源局(以下「NFMRA」という。)の組織力の強化
2. 海洋資源からの持続的な経済収益の拡大
3. 商用漁業の開発の核となる民間漁業活動の促進



4. 水産養殖の開発促進
5. 食糧安全保障及び代替生計手段を広げる持続的な海洋資源の活用
6. 海洋生物及び生態系を保護するための持続可能な実践的活動の確立
7. 違法、無規制、無報告漁業の排除
8. 沿岸海洋資源の調査

このような戦略の下、NFMRA では各種の漁業振興策を実施しているが、同国の水産関連施設は、故障や老朽化等のため本来の機能を発揮することができず、漁業振興活動に支障を来している。

このため、ナウル政府は、公益財団法人海外漁業協力財団（以下「財団」という。）に対し、水産関連施設等の修理・修復及び現地技術者への技術移転についての要請を行った。

財団は我が国とナウルとの漁業関係の重要性を踏まえ、同国政府の漁業振興策を支援するため、本プロジェクトを実施した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	修理・修復対象施設周辺地域の漁業の生産性が向上し、小規模漁業が発展する。
プロジェクト目標	水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。
成 果	<p>巡回指導</p> <p>① NFMRA ワークショップの整備、機能の強化及び技術指導</p> <p>作業場には照明がなかったことから、これを設置することにより、夜間の作業、特に海難救助活動を円滑に進められるようになった。また、塩害による腐食が進んでいたシャッターを交換することにより、作業場内での機器類の保管状況が改善した。さらに、TIG（不活性ガス）溶接機を換装したことにより、アルミ船の船体修理能力が復活した。</p>
活 動	<p>巡回指導</p> <p>① NFMRA ワークショップの整備、機能の強化及び技術指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ作業場への照明の設置 ・シャッターの交換 ・TIG 溶接機の交換及び工具類の補充 ・上記の作業に必要な技術的指導

投 入	<p>財団側</p> <p>1) 専門家 計画 巡回指導：チームリーダー／漁船機関専門家 2022年2月上旬～3月中旬(約42日)</p> <p>実績 巡回指導：チームリーダー／漁船機関専門家 2021年11月1日～12月28日及び 2022年1月4日～3月31日の間(計145日)</p> <p>延日数 計画 42人日 実績 145人日(計画対比：345%) (注：技術指導はすべて遠隔で行われた。派遣人日数の実績には、マニュアル作成、オンライン打合せ、カウンターパートとの連絡等に費やされた日数が含まれる。また、専門家はナウル、フィジー及びパラオを併せて担当しており、実績はこれらの国を対象に遠隔での技術指導及び現地での技術指導等を行った期間が含まれる。)</p> <p>2) 主な資機材 照明及び電線敷設資材、シャッター、TIG溶接機及び工具類</p> <p>相手国側</p> <p>1) 主なカウンターパート NFMRA ワークショップの整備、機能の強化及び技術指導</p> <p>2) プロジェクト関連予算、土地、施設等 ワークショップ、事務室、NFMRA 車両の無償提供</p>
-----	---

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、ナウル政府の長期開発計画において海洋・漁業分野の重要戦略として位置づけられている「食糧安全保障及び代替生計手段を広げる持続的な海洋資源の活用、商用漁業の開発の核となる民間漁業活動の促進」などに合致した事業内容であり、妥当と判断される。

2. 協力ニーズ(対象国、対象地域)との整合性

ナウル政府から、水産関連施設の修理・修復及び現地技術者への技術移転を要請されて

おり、事前調査において NFMRA ワークショップの整備、機能の強化及び技術指導に対する協力ニーズが高いことが確認されている。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、直接環境に影響を与える活動はなく、廃棄部品等の扱いについては、周辺の自然環境や島民の生活環境に悪影響を及ぼさぬよう、常に環境保全に配慮している

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、水産関連施設（NFMRA ワークショップ）の機能回復を図り、その運営・管理に対する助言及び技術指導を行うものである。これら施設の機能回復は周辺水域の水産資源に対する負荷を大きくするなどの影響を与えるものではなく、発生する廃材は、ナウルの関連法に従い、指定された場所に廃棄されている。

5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

◆ 効 率 性

1. 事業費及び実施期間

事業費については予算をオーバーしており、効率的とはいえない部分があった。一方、実施期間については、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で専門家を現地へ派遣できず、リモートで技術指導を実施したが、リモート指導に必要な資料の作成等に相当の時間を要した。なお、専門家は複数国を対象とした遠隔での技術指導及び現地での技術指導等を併行して行ったが、作成に要した時間は個々の国に振り分けることが出来ず、技術指導に要した期間は実績を反映していないという特殊事情に鑑み、実施期間については評価が困難と認められることから評価はしない。

2. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

プロジェクト活動はすべて完了し、それぞれ期待された機能及び能力を発揮した。

3. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

移転技術は、専門家がこれまでの技術指導の経験から、カウンターパートの技術水準を把握しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

新型コロナウイルス感染症拡大による渡航制限により、技術指導はメール等の手段を用いて遠隔で対応した。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

新型コロナウイルスの影響で、専門家を現地へ派遣することができなかった。

◆ 有効性

1. プロジェクト目標の達成度

①プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：関連施設の修理・修復及び技術移転（巡回指導）

水産関連施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術の向上

計画どおり水産関連施設の機能が回復し、また、必要な技術移転が行われ、技術指導によるカウンターパートの知識及び技術レベルが益々向上したことから、プロジェクトの目標は達成された。

②その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

<活動項目>

巡回指導

① NFMRA ワークショップの整備・修理機能の強化及び技術指導

(NFMRA ワークショップ機能強化 (夜間の海難救助準備に必要な照明施設の完備)、修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。)

ワークショップ作業場内、隣接するスリップウェイ及びこれらをつなぐ通路を照らすことができる照明装置を設置することにより、多目的船を容易かつ安全に作業場から引き出し、上下架できるようになった。このことにより、特に、夜間の海難救助活動を円滑に実施することが可能となった。

また、塩害による腐食が進んでいたシャッターを交換することにより、作業場内に保管されている機器類への塩害を防ぐことができるようになり、作業環境が改善した。

さらに、経年劣化で使用不可となっていた TIG 溶接機を交換し、工具セット及び多目的船修理用の予備品を補充することにより、溶接機能が回復し、船舶の整備・修理機能が向上した。

これら一連の技術指導を通じ、ワークショップのさらなる活用と維持・管理に関するカウンターパートの知識・技術レベルが向上した。

◆ インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

本プロジェクトの実施により、ワークショップ及び多目的船の整備担当職員の技術が向上した。今後、ワークショップ及び多目的船が順調に稼働し、過去に指導した漁具・漁法が順調に機能することが期待され、上位目標である修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産の増加、小規模漁業の発展に一定の効果を及ぼすことが見込まれる。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施の結果、多目的船の安定的な稼働が可能になれば、科学的な調査に基づいた沿岸漁業に関する施策の実施、集魚装置 (FADs) の設置及び管理、民間船及び漁船の遭難等の緊急事態への対応、一般漁民への漁法の普及等に繋がり、均しく一般漁民の漁業活動に裨益することとなる。

3. その他 (ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等)

特になし。

◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートは NFMRA の職員で、プロジェクト終了後も引き続き本施設の管理を担当する予定である。ナウルにおいて多目的船の果たす役割は大きく、NFMRA は適宜点検整備、修理を行い活用しており、今後も有効活用される見込みである。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトにより施設の機能が復活し、継続的な活動を可能にする人的・物的環境が整備された。また、ナウル政府は当該施設の継続的運営が同国の沿岸漁業振興に不可欠であることを認識しており、本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込みである。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

NFMRA は、2020 年、損傷が進んでいたワークショップ建物の梁、棟、屋根及び屋根の支柱の全面的な改修工事を独自に行った。このことは、本プロジェクトによる、ワークショップを活用した技術移転の効率的実施と効果の継続に寄与すると考えられる。

以上